

子供と高齢者の世代間交流を促進する街づくり

—大学生による世代間交流活性化—

チーム名：いかさん
金本海誓，鹿野千尋，石島維織，倉田一寿
ゼミ教員：吉見憲二

成蹊大学 経営学部 総合経営学科 吉見ゼミ

キーワード：世代間交流，大学生，地域貢献，空き家活用

1. 研究の要旨

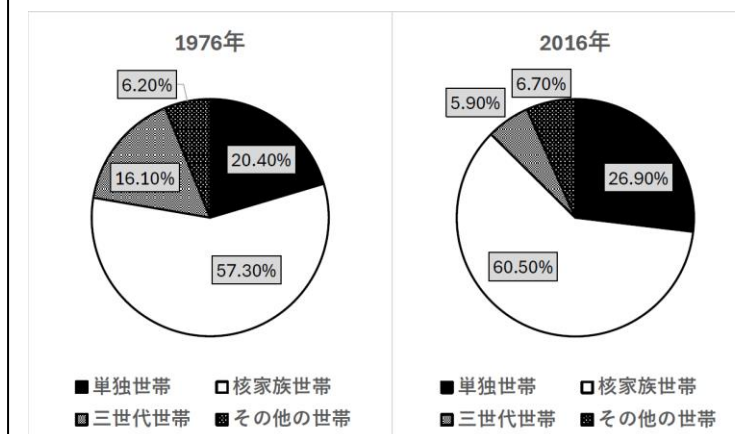
本研究では、地域の子供と高齢者の世代間交流イベントを大学生が手助けし、継続的に参画する大学生に対して空き家の提供といった住居支援を行うことを提案する。これにより、地域の子育て支援と高齢者の孤立解消を目指す。

核家族化やコロナ禍の影響で高齢者の孤立が深刻化する中、世代間交流において若者の参加が少ないという課題がある。本提案では、大学生が地域交流イベントを企画・運営し、世代間交流を促進することを目指す。具体的には、既存のイベントへの学生の参加や学生による地域のイベントの企画を通じて、地域の安全性向上や伝統の継承、大学生のリーダーシップ育成を図る。また、継続的に世代間交流に参画してくれる大学生に対して、市内の住居バウチャーを提供し、地域貢献の機会を増やす。本提案の課題としては、若い世代の参加確保と継続的な実施が挙げられ、自治体や大学との連携が不可欠である。将来的には、地域の子育て支援や高齢者の孤立解消、大学生の成長、地域社会の活性化が期待される。

2. 提案に至った背景

提案に至った背景としては、核家族化による共働き世代の負担増大や高齢者の孤立が進んでいる現状がある。図1は、国民生活基礎調査¹⁾を元にした年別の世帯割合を比較したグラフである。これを見ると、この40年で単独世帯と核家族世帯の割合が拡大し、三世帯世帯の割合が減少していることが示されている。このような構成人数や年代の多様性が少ない世帯では、孤立による子育てにおける苦勞や孤独死といった問題が生じやすい。現在の三鷹市では多世代交流センターを中心として世代間の交流を図り、子育ての負担軽減や高齢の方と若年層の交流を図りながら改善を図ろうとしているが、そこへ高校生や大学生などを中心とした若者がそうした交流の場にあまり参加を

図1：年別の世帯割合の比較



出典元：平成28年国民生活基礎調査

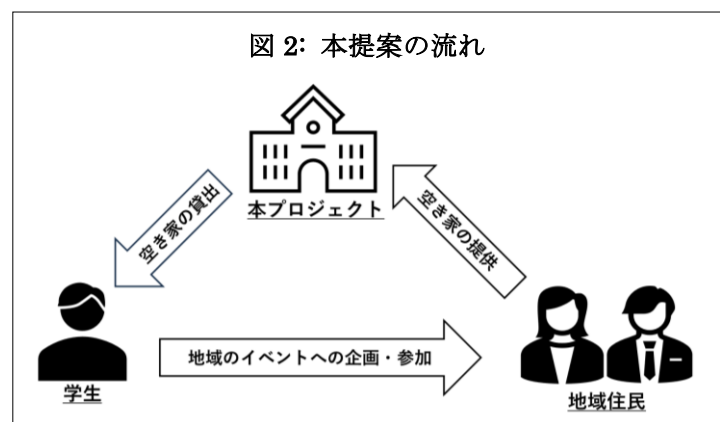
しておらず、若者世代とその他の世代に交流の欠落がある実態である。私たちはこのような問題を解決するため今回の提案を行った。

3. 目標

本提案の目標は、大学生が世代間交流の橋渡し役となり、地域の子育て支援と高齢者の孤立解消を図ることである。具体的には、地域全体で子育てや高齢者の生活を支援し、孤立を防ぐことを目指す。また、大学生が地域社会と関わることで、社会的スキルやリーダーシップを育成し、精神的な成長を促すことも目標の一つである。さらに、地域における空き家問題の解決にも貢献し、空き家を適切に活用することで地域の活性化を促し、持続可能な社会の実現を目指す。

4. 提案の具体的な内容

本提案の流れは、図 2 のとおりである。まず、継続的に世代間交流に参画できる学生を募集し、実際にイベントに参加してもらう。次に、参加した学生に対して地域住民から提供された空き家の貸し出しなどの住居支援を行う。最終的には学生自身がイベントの企画・運営を担い、より積極的な交流を促進する。このサイクルを繰り返して、目標の達成を目指すことが本提案を簡単に説明した流れとなる。



令和 5 年 3 月現在の三鷹市の家賃の平均相場は約 6.9 万円²⁾である。大学生の時給を 1,200 円とすると、家賃を賄うためには単純計算で、月に約 57.5 時間、土日に約 7.2 時間ずつ働くことになる。こうした状況から、住居支援を行うことで、学生が働く時間をイベント参画にあてることができ、本提案に参画してくれる学生の増加が期待される。また、三鷹市近隣にはいくつかの大学が存在し、引っ越してくる学生も一定数存在する。このような点からも、学生に対する住居支援は学生の募集に対して有効であると考ええる。

具体的なイベントの例としては以下の通りである。

既存のイベントへの参加

学生が既存の地域交流イベントに参加する。地域の伝統的なイベントであれば、行事の継承が課題になっている場合もあるため、こうしたイベントに対して学生が企画・参加して関わることで、伝統の継承も可能になる。

事例として、武蔵野市北コミュニティセンターでのイベントを紹介する(図 3)。

図 3: 既存イベントへの参加の事例

成蹊大学 お笑いサークルが北コミセンにやって来る!

12/14(土) 13時~15時 予定
於 北コミセン・ロビー

無料

[第1幕] 軟式お笑いサークル
「漫才・お客様とのふれあい漫談」

[第2幕] お笑いサークル「トンチキ」
「漫才・コント」

出典元: 北コミュニティだより、吉祥寺北コミュニティ協議会

このイベントでは、コミュニティセンターが企画していたイベントへの参加者を募っていると、成蹊大学のボランティア支援センターへ連絡が行き、そこから大学のお笑いサークルに話が行って実現した。このような既存のイベントへの参加は、学生の好きなことや特技で地域イベントでの交流に協力できることがメリットである。

学生によるイベントの企画(オリジナル標識・道路アート作り)

2022 年度のみたか・ミライ研究アワードの提案³⁾にもある通り、三鷹市内には道路上の課題が多く存在する。これらの課題箇所を三鷹市の地域安全マップなどを参考にしながら、世代間で協力して地域オリジナルの標識を作成・設置を行うことで、道路上の安全性の向上と市民の地域貢献を促進することができる。このような市民生活に直接関わるような問題や世代間で協力して形あるものを残せるイベントを企画することで、世代間交流の促進が期待できるだけでなく、地域に対する愛着や責任感を育むきっかけにもなることが期待される。

5. 提案を支える根拠

提案を支える根拠としては、三鷹市に関わるものと本提案に似た先行事例の2種類が挙げられる。

三鷹市に関わるもの

三鷹市に関わるものとしては、市内に多世代交流センターが存在する点と、空き家活用マッチング支援事業が事業として立ち上がっている点が挙げられる。これらによって、既にある設備やノウハウを活かすことができる。加えて、三鷹市の市民満足度調査⁴⁾によると、様々なコミュニティ活動の推進と、孤立死などを防ぐ見守りネットワーク事業の推進を求めていることが明らかになっており、市民からも本提案のような取り組みに対するニーズがあることがうかがえる。

先行事例

本提案に似た先行事例としては、「みらいネット高島平」と「京都ソリデール事業」が挙げられる。

みらいネット高島平は、空き部屋が増加していた高島平団地の活性化を目的として設立され、大東文化大学の学生と教職員が地域住民と協力し、地域住民との交流を促進する取り組みである。団地の空き部屋に学生が入居する条件として、社会貢献活動が求められており、実際に学生によるコミュニティカフェの運営などが行われていた。

京都ソリデール事業は、高齢者宅の空き室を活用して大学生と高齢者が同居することで住居支援を行うものであり、京都府が地域創生戦略の一環として推進している事業である。若者の住居確保と高齢者の孤立防止を目的としており、低廉な負担で高齢者宅の空き室に若者が同居・交流する次世代下宿の形態となっている。

6. 提案による課題と将来性

本提案の課題は、継続的な実施と空き家に関する問題にある。事業を継続するためには、自治体や大学との連携が必要であり、既存の団体と連携し、大学生と市民の団体を繋ぐ役割を果たすことで継続できると考える。成蹊大学ボランティア支援センターでは、活動を希望する学生と団体を仲介する役割を

担っており、これによって学生は継続的なボランティア活動を実施することができている。本提案にもこのような役割が求められる。また、空き家に関する問題については、相続トラブルなどの問題のある家も存在する可能性がある。これに対しては、「空き家が貸し出されることで建物が維持管理され、維持費が軽減される」や「地域社会貢献活動に熱心な学生に貸し出される」などの、空き家が活用されることにおける前向きなメリットを発信することで、問題を軽減することができると思う。

将来的には、地域における子育て支援や高齢者の孤立解消、そして大学生の人間的成長といったことが期待される。さらに、地域社会の一体感が強まり、世代を超えた支え合いの文化が根付くことが見込まれる。また、大学生による新たな企画やイベントの創出を通じて、継続的な地域の活性化やコミュニティの形成が進み、より活気に満ちた街となることが期待される。

参考資料等

[注]

- 1) グラフは[国民生活基礎調査 平成 28 年国民生活基礎調査 世帯 報告書掲載 全国編]を元に作成した。
- 2) 不動産情報サイトアットホームより(2025 年 3 月 5 日 閲覧)。
- 3) [学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2022「三鷹市の道幅一元あるものを今よりもっと一」、ハサミーイ、亜細亜大学 都市創造学部 林 菜月]を元にして、イベント例を作成した。
- 4) [第 5 次三鷹市基本計画策定に向けた市民満足度調査]における[市が推進すべきコミュニティ創生の取り組み]より。

[参考文献]

- ① 北コミュニティだより. 令和 6 年 11 月号 No436, 吉祥寺北コミュニティ協議会広報部
- ② 学生によるミタカ・ミライ研究アワード 2022「三鷹市の道幅一元あるものを今よりもっと一」、ハサミーイ、亜細亜大学 都市創造学部 林 菜月(2025 年 2 月 24 日 閲覧)
<https://www.mitaka-univ.org/kenkyu/mitakamirai/pdf/202304.pdf>
- ③ 三鷹市「多世代交流センターについて」(2025 年 2 月 24 日 閲覧)
https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/078/078628.html
- ④ 三鷹市「空き家活用マッチング支援事業のご案内」(2025 年 2 月 25 日 閲覧)
https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/111/111026.html
- ⑤ 国土交通省「～地域活性化プロジェクトを成功に導くために～ 「プロジェクト・パッケージのすすめ 事例・ポイント集」[事例 13]」(2025 年 2 月 26 日 閲覧)
https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudokeikaku_tk3_000012.html
- ⑥ 京都府「次世代下宿『京都ソリデール』事業」(2025 年 2 月 26 日 閲覧)
https://www.pref.kyoto.jp/jutaku/jisedaigeshuku_kyotosolidaire.html
- ⑦ 成蹊大学ボランティア支援センター (2025 年 2 月 27 日 閲覧)
<https://www.seikei.ac.jp/university/volunteer/>